

民間企業と連携したICT等最新農業機械に関する教育の充実

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、農業に関する幅広い視野と高度な経営能力を有し、本県農業を担う優れた次世代の農業者の育成に取り組んでいます。

令和元年度は、民間企業と連携して直進キープ機能付田植機や環境測定器など最新農業技術に関する実習授業を行うことで、学生に最新技術を実感させるとともに、その技術を「どう活用するか」を考える機会を設けました。

普通作コースでの最新田植機・コンバインの実演

GPSによる直進キープ機能を有した田植機や食味・収量センサーが搭載されたコンバインなど最新農業機械の実演を行いました（写真1）。

学生は機械の説明、操作体験をとおして、最新技術を実感するとともに、日々の実習において「将来の農業経営には何が必要か、それをどう活用するか」を考えるようになりました。



写真1 直進キープ機能付田植機実演



写真2 AI灌水施肥システム研修会
(令和元年7月4日撮影)

果樹コースでのAI灌水施肥システムの活用

ブドウおよびナシの根域制限ハウスにAI灌水施肥システム（地温データ等を収集し、作物の状況に適した水分・養分供給量を自律的に判断し灌水する）を導入しました（写真2）。これら作物でプロジェクト学習や卒業研究に取り組む20人の学生を対象に、当該システムの仕組みや操作方法を学ぶ研修会を開きました。

学生は、環境測定データをリアルタイムに確認しながら、省力的かつ高品質果実生産に向けた最適な養水分管理を自ら考えて栽培管理に取り組むようになりました。

施設野菜・花きコースでの環境測定器の活用

園芸部の野菜ハウス4か所、花きハウス2か所に環境測定器を導入し、学生が環境測定データをリアルタイムに確認できるようになりました（写真3）。

学生は講習会で施設栽培での環境測定の重要性や測定データの読み解き方を学び、理解を深めることができました。

普段管理しているハウスの状況を数字で見ること、理想の環境に近づけるには換気や遮光等をどのように工夫すれば良いのか等について、学生同士で考え、最適な栽培管理に取り組むようになりました。



写真3 環境測定器によるデータ測定